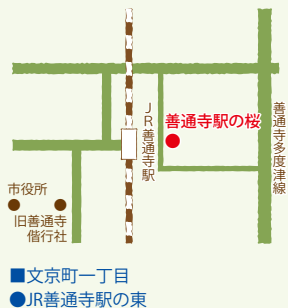




善通寺市の春のシンボル



善通寺市を見守り続ける桜の大樹

善通寺駅の東に位置する駐車場の一角に桜の大樹があります。かつては、駅の東、現在の善通寺多度津線を挟んだ所に旧陸軍第11師団の将校官舎があり、その庭に咲いていた桜の木を移植したと伝えられています。

戦前の善通寺駅は東からも出入りすることができ、この場所で見送りが行われていました。昭和12(1937)年に日華事変が起きると、「赤紙」の召集令状により多くの兵士が戦地に赴くこととなり、日の丸の旗を

持った家族や大勢の人に見送られ、盛大な壮行会が行われました。この桜はそうした出征兵士を見送り、家族達を見守ってきました。

時代が移り変わった今でも毎年春になると満開の花を咲かせます。市の玄関口である駅のホームからも目を引くこの木は、市を訪れる多くの人を華やかに出迎えています。



訪れる人を温かく迎える桜の木